

### (3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 常葉大学大学院初等教育高度実践研究科
コラボ研修プログラム	事業名： NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修 国際バカロレアを通した一貫教育の創造
支援事業報告書	研修等名：【NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修②】 「国際バカロレアを通した一貫教育の創造」
	開催日時：令和5年12月11日(月)午後2時～4時30分 開催場所：常葉大学静岡草薙キャンパス 常葉大学センター 〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町6-1 参加人数：一般参加教員(9)、教職大学院生(17)、学部生(4)、大学教員(5)、計35名

#### 内容：

まず、学校法人星美学園静岡サレジオ理事長末吉弘治氏から「国際バカロレアを通した一貫教育の創造」というテーマで講演をいただいた。「そもそも国際バカロレア認定校とはどのような学校なのか」という話題から入り、インターナショナルスクールとの違いや PYP、MYP、DP といった3段階のカリキュラムについても分かりやすく解説していただいた。静岡サレジオは、日本で唯一の一条校としての幼・小・中・高一貫国際バカロレア認定校で、①信念に基づく価値教育が行われていること、②言語認知の学習が系統的になされていること、③学ぶ場と人との交流が盛んに行われていることに強みがあるとのことだった。国際バカロレアの3つのステージを日本の教育課程になじむように4・4・4制という年度にしていることやプレDPという独自のカリキュラムを用意している点にも独自色があつた。後半は、末吉氏が考える一貫教育における学習活動について詳しい解説がなされ、実感・本音・納得等がなければ概念理解を伴う言語認知はできないこと、思考・判断と表現は表裏一体の関係にあること、学び方を学ぶことこそ重要であることなど、現学習指導要領で大切にされていることにもつながるような考え方に触れることができた。

グループワークでは、管理職、教諭、大学院生、学部生の混合で5つのグループをつくり、講演を基にした意見交流を行った。それぞれが感じたことを自由に出し合い、共通点等を見付けながらホワイトボードにまとめていった。立場の異なる参加者同士なので、様々な視点から多様な意見が出された。その後、各グループで出された意見について、全体の場で発表し合い、共有化を図った。国際バカロレアに賛同する意見や言語活動の大切さを再認識したという感想、年齢の異なる子供同士が交流することの必要性など、末吉氏の講演内容と重なる部分が多く、講演内容が参加者の心に響いたことを確認し得る場ともなった。

最後は、末吉氏より、参加者から出された質問に対する回答やグループ発表の指導講評等をいただき、研修会をまとめた。

豊富な経験と確かな理論に基づく末吉氏の講話は、深くて示唆に富み、童話や童謡を引用した例え話も非常に分かりやすかつた。2時間半という時間が非常に短く感じる中身の濃い研修会となった。

#### 成果：【事後アンケート結果】

- 1 本研修全体を通して、この研修は有意義でしたか：とても有意義(79%)、概ね有意義(21%)
- 2 講演会の内容について：大変よかった(83%)、概ねよかった(17%)
- 3 グループワークの内容について：大変よかった(71%)、概ねよかった(21%)、無回答(8%)

<自由記述より>

- ・国際バカロレアと一貫教育の関連や教育理念について理解を深めることができた。
- ・国際バカロレアという言葉からは英語教育のイメージが強かつたが、話を聞いて、現学習指導要領に基づく指導の在り方について参考にすべき点がたくさんあつた。
- ・まどみちおの詩ややぎさんゆうびんの童謡の話が分かりやすく、また、考えさせられる内容であつた。

#### アイディアや工夫したこと：※3～5つ程度の箇条書きしてください。

- ① 本学に隣接していながらも普段はあまり交流のない私学から講師を招き、交流の幅を広げるとともに、新しい価値観、考え方に触れられるようにしたこと。
- ② 前回のコラボ研修に引き続き、学部生にも広報を広げ、幅広い立場の者同士が学び合えるようにしたこと。
- ③ グループでの意見交流では、グループごとに大型の円形ホワイトボードを使用して意見の整理をしやすくし、全体発表の際にも共有化が図られるようにしたこと。

<写真・図など>

講演の様子



グループワークの様子



グループワーク発表の様子

